

宛先： 日本専門医機構ならびに理事、社員  
提出主：医療法人社団ミネルバ 理事長  
総合内科専門医・がん薬物療法専門医・臨床遺伝専門医 仲田洋美  
資格： 医籍登録番号 第 371210 号  
麻酔科標榜医 厚生労働省医政発第 1017001 号 麻 第 26287 号  
日本内科学会 認定内科医 第 19362 号  
日本内科学会 総合内科専門医 第 7900 号  
日本プライマリ・ケア連合学会 指導医 第 2014-1243 号  
日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医 第 1000001 号  
臨床遺伝専門医制度委員会認定 臨床遺伝専門医 第 755 号  
日本感染症学会認定 インфекションコントロールドクター ID3121 号  
日本化学療法学会 抗菌化学療法認定医 第 J-535 号  
日付： 令和 2 年 7 月 4 日

## 日本専門医機構認定講習のマネジメントに対する抗議 4

本年 1 月にも苦言を呈したのですが、同じく日本産科婦人科学会が専門医機構（以下機構と表現）の共通講習としてどうなのかというものを提供していたので抗議いたします。

### 事実

1. 公益社団法人日本産科婦人科学会（以下日産婦と表現）は、第 139 回関東連合産科婦人科学会学術集会において 3 つの専門医機構認定講習を認めた。証拠として第 139 回関東連合産科婦人科学会学術集会を添付する。
2. 産婦人科領域講習 特別講演「女性のトータルヘルスケアのための LEP と HRT—心血管疾患のリスクの観点から—」  
共通講習（感染対策） 特別企画シンポジウム「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の現状と展望」  
産婦人科領域講習指導医講習会「産婦人科医の労働環境を改善させよう」  
の 3 つのプログラムを日産婦が関東連合に機構単位として認めたものである。

### 問題点

1. 産婦人科領域講習 特別講演「女性のトータルヘルスケアのための LEP と HRT—心血管疾患のリスクの観点から—」が日産婦のプログラムの何に対応しているのかが

全く分からない。

2. 共通講習(感染対策) 特別企画シンポジウム「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の現状と展望」の講師に医療の資格を全く持たずワイドショーで科学的根拠のないことをしゃべり、医療界としては大変な迷惑を被っている岡田晴恵氏を招いている。
3. 産婦人科領域講習指導医講習会「産婦人科医の労働環境を改善させよう」については、「労働環境を改善させる」という講習会と「専門医としての生涯教育」という専門医機構がになっている役割から機構が行うべき認定講習との相関性が全く不明である。

## 考察と要望

1. 基幹学会がその関連団体に勝手に機構講習を委任すると、質が担保できないし、この講演会が産科婦人科学会のプログラムと関係性があつたのかどうかすらわからない。基幹学会がそのアカデミアとしての資質を生かして当該基本的領域の講習会を行うのであるが、どのような内容でも機構単位を付与するのであれば、専門医機構の存在意義が没却されるのみとなる。

これを改善するには、プログラム委員会や認定更新委員会で当該基幹学会が機構単位を付与する団体が行う講習会が①当該基本的領域の学会のモデルプログラムのどの項目と一致しているのか、また、当日配布される資料等を機構単位を付与するのに相当なのかについてチェックする仕組みを作る、②機構で認められたサブスペシャリティ学会のみが基本的領域の領域講習を行うことができる、等のシステムを構築すべきである。日産婦には半年前に苦言を呈したが、改善されておらず、特に岡田晴恵氏についてはおそらく日産婦会員からもツイッターで文句が出ていて、ウェブ開催なので質疑応答もできないと苦情を目にした。このような基幹学会に領域講習と言えど無尽蔵に権限を付与するべきでない。これは日産婦の単位ではなく機構単位なのであるから。

2. 同じく、産婦人科医の労働環境を改善するという講習会で、なぜ機構単位が付与されるのかが不明である。機構の存在意義は医師のスキルの生涯教育であり、労働問題の改善は医師のスキルではない。こうした領域別講習が認められていること自体に大変驚くばかりである。もはや『アカデミアは性善である』という説にたつのは厳しいのではないか。領域別講習も機構でしっかりと管理すべきである。
3. 尚、領域別講習を機構でしっかりと管理すべきということで増える機構の事務作業については、各基本領域学会がだらしなないためであるので、学会からの金銭的負担を増加して対応するのが当然と言える。
4. 産科婦人科学会の落ち度に巻き込まれて金銭的負担が増えることに対する他の基幹学会たちとして、悔しい思いであろうことは想像に難くないため、学会の事務作業がどのように行われているのかというサイトビジットを学会同士ですることにより、学会自体のクオリティを上げることを提言する次第である。
5. 日産婦の専門研修プログラムに「医師としての倫理性、社会性など」という項目を

発見したが、日産婦は6月某日、日本医師会に「NIPTの件で日本人類遺伝学会ならびに日本小児科学会と合意した」と報告した。しかし、日本人類遺伝学会は日産婦から送られた文書に異論を述べて返却したまでであり、何ら合意に至っていない。「何をどのように合意したのか」も全く述べずに「合意した」とだけ述べ、新聞社に取材させて書かせ、あたかもそのようになるのが当然という誤解を世間に与えるものであり、卑劣と言わざるを得ない。自分たちのことは自分たちで何をしてでも許されるのだ、という考えであるため、機構単位も「労働環境の改善」で認めてしまうのだと推認する。各基本的領域並びに厚生労働省に置かれては、日本の専門医制度、いや、医療そのものが行政のガバナンスのもとにあることを今一度各基本的領域学会関係者がしっかり理解できるように支援することを望む。毎度毎度、わたくしが認定講習の件で文句を言わねばならないのがなぜ日産婦なのか、原因はどこにあるのかについて、そろそろまじめに研究すべし。さもなくば外科系は徒弟制度なので日本の産科婦人科診療の未来は大きく損なわれるであろう。産科の問題は全体の問題である。医師会長に事実でない報告を行う団体など聞いたことがない。合意したなら合意した文書をもっていかねば合意したことが確認できない。結婚というプライベートなことであればいちいち婚姻届けや住民票を見せろということはないが、通常、3つの学会が合意した内容を一つの団体が報告に行くのであれば正式には委任状があったり3者で合意した文書を持っていくのが社会通念である。医師である前にこうした社会通念の教育もしなければならないのではないか。

ともかく、いろいろな問題があるようなので、この際、学会運営の透明化を全体として担保するためにもサイトビジットや学会自体の教育をも専門医機構がすべきである。さもなくば常に機構が「どうしてこれに単位を付けたんだ」と非難され続けることとなる。こうしたことをシステムティックに防止する仕組みを早急に構築すべきである。

以上

## 日本専門医機構の認定講習一覧

日本専門医機構が認めるプログラムは、下記の通りです。

産婦人科領域講習	特別講演 「女性のトータルヘルスケアのための LEP と HRT —心血管疾患のリスクの観点から—」
共通講習（感染対策）	特別企画シンポジウム 「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の現状と展望」
産婦人科領域講習	指導医講習会 「産婦人科医の労働環境を改善させよう」



HOME (Web視聴)

会長挨拶

演題募集

参加者の皆様へ

プログラム

アクセス

託児について

## 参加者の皆様へ

【2020/05/12時点】

新型コロナウイルス (COVID-19) の影響は、未だ先を見通せない状況が続いており、第139回 関東連合産科婦人科学会総会・学術集会の開催形態につきまして慎重な審議を重ねた結果、都市センターホテルでの開催を中止とし、「Web開催のみ」といたします。

【2020/06/19更新】

※Web視聴のご参加には、Web参加登録 (参加費のお支払い) が必要です。お支払い方法は、クレジットカード決済のみとなります。

※Web視聴には、参加登録で取得したIDとパスワードが必要です。参加登録完了後にお送りするメールは視聴期間まで大切に保管していただくようお願いします。

**参加登録期間と視聴期間を以下のとおり、2段階で期間を設けておりますのでご注意ください。**

Web参加登録期間① (学会参加単位・日本専門医機構単位付与対象期間)	2020年 6月8日 (月) 正午～ 6月26日 (金) 正午
--	---------------------------------------

Web視聴期間① (学会参加単位・日本専門医機構単位付与対象期間)	2020年 6月23日 (火) 正午～ 6月29日 (月) 10:00
--------------------------------------	---

※**参加単位、日本専門医機構単位**が必要な方は、**上記①の期間内にWeb参加登録、Web視聴の両方**を必ずお済ませください。

※6月29日 (月) 10:00までに、視聴完了していない講演は単位取得が出来ませんのでご注意ください。視聴完了までお時間に余裕をお持ちください。

※6月29日 (月) 10:00～18:00はシステム切替のため、視聴できません。

※視聴のみ (各種単位付与はされません) は、下記Web 視聴期間②6月29日 (月) 18:00～7月6日 (月) 正午まで引き続き可能です。

Web参加登録期間②	2020年 6月29日 (月) 18:00～ 7月6日 (月) 10:00
------------	---

Web視聴期間② * 各種単位付与はされません。視聴のみ可能です	2020年 6月29日 (月) 18:00～ 7月6日 (月) 正午
-------------------------------------	--

・ Web視聴期間①の期間内に、Web視聴した場合には、通常の学会参加と同様に、学会参加証明書の発行、日本産科婦人科学会専門医研修出席証明 (10点) および日本専門医機構学術集会参加単位 (2単位) が取得できます。

\* 単位取得には、Web参加登録時に日本産科婦人科学会の会員番号入力が必要となりますのでご注意ください。

※抄録集発刊時より変更がございます。以下の通り、訂正させていただきます。

誤: 「日本専門医機構学術集会参加単位 (3単位) が取得できます。」

↓

正: 「日本専門医機構学術集会参加単位 (2単位) が取得できます。」

・ Web視聴期間①の期間内に、Web視聴した場合には、日本産婦人科医会研修参加証明書 (医会シール) は、日本産婦人科医会会員であり、かつ関東連合産科婦人科学会会員である方に限り1枚発行申請が可能です。(後日送付予定)

・ Web視聴期間①の期間内に、Web視聴した場合には、日本専門医機構共通講習および領域講習の単位取得も可能の予定です。(該当セッションの設問回答方式)

- ・ご講演いただくセッション〔指定演題講演、優秀演題賞候補〕については、全セッションの事前収録を行っていただき、視聴できるように準備中です。ただし、演者の方の許諾を得られない場合等には、Web配信できないセッションもございますのでご了承ください。
- ・一般演題（口演）については、発表スライド動画の閲覧ができます。
- ・若手ポスター発表については、発表スライドPDFの閲覧ができます。
- ・ご講演セッションの収録、一般演題（口演）発表スライド動画のご登録・若手ポスター発表スライドPDFのご登録、および参加費のお支払いをもって、第139回関東連合産科婦人科学会学術集会にて発表したものとみなします。
- ・優秀演題賞については、セッション事前収録でのご発表内容、討論を踏まえ、優秀演題賞を選定いたします。若手優秀演題賞については、ポスター発表スライドPDFを踏まえ、選定します。（Web視聴期間②で、発表を予定しております。）

Web参加登録は  
こちらから

■総会

Webにて総会を行います。関係者各位のご参加をお願いいたします。  
日時：6月14日（日）13：30～14：30

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染防止徹底のため、現在事務局はテレワークを実施しております。  
恐れ入りますが、当面の間原則E-mailにてお問合せいただきますよう、よろしくお願いいたします。

**関東連合産科婦人科学会学術集会事務局**

〒102-0083 東京都千代田区麹町4-7 麹町パークサイドビル402

TEL：03-3288-0993 FAX：03-5275-1192 E-mail：[kanto-gakujutsu@jsog-k.jp](mailto:kanto-gakujutsu@jsog-k.jp)

※Web視聴に関するお問い合わせ対応 9：30～17：00（土・日・祝日は休業）

## 学術集会プログラム

### 特別講演 P

「女性のトータルヘルスケアのための LEP と HRT—心血管疾患のリスクの観点から—」

座長：東京歯科大学市川総合病院 高松 潔

演者：愛知医科大学 若槻 明彦

### 特別企画シンポジウム P

【新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の現状と展望】

座長：獨協医科大学埼玉医療センター 高倉 聡

「新型コロナウイルス感染症；疫学と予防」

演者：東京慈恵会医科大学分子疫学研究部 浦島 充佳

「新型コロナウイルス感染症の臨床と感染対策」

演者：東京慈恵会医科大学感染制御科 吉田 正樹

「新型コロナのリスク評価と対策」

演者：白鷗大学教育学部 岡田 晴恵

### シンポジウム

【遺伝診療のアップデート】

座長：都立墨東病院 久具 宏司

東京大学統合ゲノム学 織田 克利

「遺伝性乳がん卵巣がん診療の最新動向」

演者：岡山大学大学院医歯薬学総合研究科臨床遺伝子医療学 平沢 晃

「NIPT の現状と課題」

演者：昭和大学 関沢 明彦

「PGT-A の現状と課題」

演者：藤田医科大学総合医科学研究所分子遺伝学 倉橋 浩樹

### 第138回学術集会優秀演題賞からの展開

ワークショップ1【子宮体癌治療における腹水細胞診】

座長：国立がん研究センター中央病院 加藤 友康

「子宮体癌の腹水細胞診は再発予測因子となるか」

演者：国立がん研究センター中央病院婦人腫瘍科 加藤 真弓

「子宮体癌治療における腹水細胞診の意義—腹水細胞診は子宮体癌の独立した予後因子なのか?—」

演者：弘前大学大学院医学研究科産科婦人科学講座 二神 真行

「Re-thinking of prognostic significance of peritoneal cytology in endometrial cancer」

Speaker: The Jikei University School of Medicine Masataka Takenaka

## ワークショップ2【新技術による新しい産科超音波評価法】

座長：聖マリアンナ医科大学 長谷川潤一

[新しい超音波胎児心機能評価法]

演者：東邦大学医療センター大森病院 長崎 澄人

[Antenatal ultrasound assessment of placental pathology using Superb Micro-vascular Imaging (SMI)]

Speaker: St. Marianna University School of Medicine Natsumi Furuya

[AI を用いた胎児心臓超音波スクリーニング]

演者：昭和大学江東豊洲病院 小松 玲奈

## ワークショップ3【UAE 後晩期合併症】

座長：聖マリアンナ医科大学 鈴木 直

[当院における関連各診療科との密な連携による患者満足度の高い子宮動脈塞栓術施行の取り組みについて]

演者：聖マリアンナ医科大学産婦人科学 近藤 春裕

[A case of uterine factor amenorrhea due to severe atrophy of the uterine corpus after uterine artery embolization]

Speaker: Gunma University Hospital Yumiko Hagiwara

[子宮筋腫に対する UAE 後の晩期合併症]

演者：済生会滋賀県病院放射線科 勝盛 哲也

指導医講習会 

[産婦人科医の労働環境を改善させよう]

座長：千葉大学 生水真紀夫

演者：北里大学 海野 信也

## 関東ブロック産婦人科医会シンポジウム

【東京都内中学校における性教育指導とその課題】

座長：東京産婦人科医会会長 山田 正興

東京産婦人科医会学校保健担当理事 吉野 一枝

[性教育の手引(改訂版)の特徴と概要について]

演者：東京都多摩教育事務所指導課統括指導主事 美越 英宣

[性の健康教育～これまでの取り組み、これからの課題～]

演者：アトラスレディースクリニック 塚田 訓子

[中学校における性教育指導の課題]

演者：東京都北区立桐ヶ丘中学校主幹教諭(養護) 田片 博子

[指定発言]

東京都医師会副会長 角田 徹



### スポンサードセミナー 1

「婦人科良性疾患に対する低侵襲手術に必要な教育—腹腔鏡手術からロボット支援手術まで—」

演者：東京女子医科大学 熊切 順

「骨盤臓器脱治療の低侵襲化と安全な技術導入」

演者：東京大学 平池 修

(共催：テルモ株式会社)

### スポンサードセミナー 2

「進行卵巣がんに対する手術療法の最前線」

演者：東京医科大学 加藤 一喜

(共催：科研製薬株式会社)

### スポンサードセミナー 3

「妊娠初期超音波～Diagnosis and screening at first trimester～」

演者：昭和大学 徳中真由美

(共催：GEヘルスケア・ジャパン株式会社)

### スポンサードセミナー 4

「月経困難症・子宮内膜症診療の最前線—外来での継続的な管理のために—」

演者：東京大学 大須賀 穰

(共催：バイエル薬品株式会社)

### スポンサードセミナー 5

「婦人科領域におけるゲノム医療」

座長：東海大学 三上 幹男

演者：新潟大学 吉原 弘祐

(共催：武田薬品工業株式会社)

### スポンサードセミナー 6

「月経関連疾患ホルモン治療の新しい潮流」

座長：埼玉医科大学 石原 理

演者：慶應義塾大学 丸山 哲夫

(共催：ノーベルファーマ株式会社／あすか製薬株式会社)